

国や県の方針とそれに基づいた焼津市の利活用推進について

1 国の方針

令和元年6月に成立した「学校教育の情報化の推進に関する法律」に基づき、「学校教育情報化推進計画（案）」が令和4年4月に公表された。これは学校教育の情報化の推進に関して今後5年間に取り組むべき施策の方向性を示したものである。

基本的な方針として「ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成」「教職員のICTの利活用指導力の向上と人材の確保」「ICTを活用するための環境の整備」「ICT推進体制の整備と校務の改善」の4点が示されており、指標例や目標等がまとめられている。

2 県の方針

令和4年7月に「ふじのくに学校教育情報化推進計画」が示された。これは今後の県の施策の方向性を示すものであると同時に、努力義務とされている市町村の学校教育情報化推進計画の策定に当たって参考となるものである。期間は令和7年度までの4年間で、進捗状況の把握のため、以下のような指標等が示されている。

| 指標名 | 現状値 | 目標値 |
|--|---------------------------------|-------------------------------|
| 学習の中で ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思うと答える児童生徒の割合 | 小 95.3% 中 93.6% (2021 年度) | 小 100% 中 100% (2025 年度) |
| 授業中に ICT を活用して習熟度別学習や協働学習など専門的な指導ができる教員の割合 | 65.7% (2020 年度) | 100% (2025 年度) |
| 日常的に授業で ICT を活用した学校の割合(全校種計) | 94.1% (2020 年度) | 100% (2025 年度) |

3 焼津市の現状

県や全国との比較のために、令和4年度全国学力学習状況調査における児童生徒質問紙、及び学校質問紙にあるICT利活用の項目を抽出した。(2022年度)

| | 項目名 | 国 | 静岡県 | 焼津市 |
|---|---|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 | 学習の中で ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思うと答える児童生徒の割合 | 小 94.4% 中 92.6% | 小 95.2% 中 94.2% | 小 94.8% 中 95.0% |
| 2 | 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したかについて「週1回以上」と答える児童生徒の割合 | 週 1 回以上 小 83.2% 中 80.6% | 週 1 回以上 小 86.6% 中 87.0% | 週 1 回以上 小 87.6% 中 90.6% |
| 3 | 前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか | 週 3 回以上 小 86.2% 中 87.7% | 週 3 回以上 小 85.6% 中 90.0% | 週 3 回以上 小 100 % 中 100 % |
| 4 | 調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させたか(週1回以上) | 週 1 回以上 小 59.1% 中 55.4% | 週 1 回以上 小 63.3% 中 63.1% | 週 1 回以上 小 61.6% 中 77.7% |
| 5 | 学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか(週1回以上) | 週 1 回以上 小 49.4% 中 43.5% | 週 1 回以上 小 55.9% 中 52.9% | 週 1 回以上 小 52.0% 中 57.1% |

※設問 1, 2, 5 については児童生徒の回答、3, 4 については学校毎の回答

この結果を見ると、ほぼすべての項目で、全国や県と比較して、同等あるいは優れているという数値が見て取れる。全国学力学習状況調査のため、該当学年は小学校6年生と中学校3年生になるが、この結果から考えると、焼津市のICT利活用の状況は国や県と同等、あるいは進んでと考えられる。

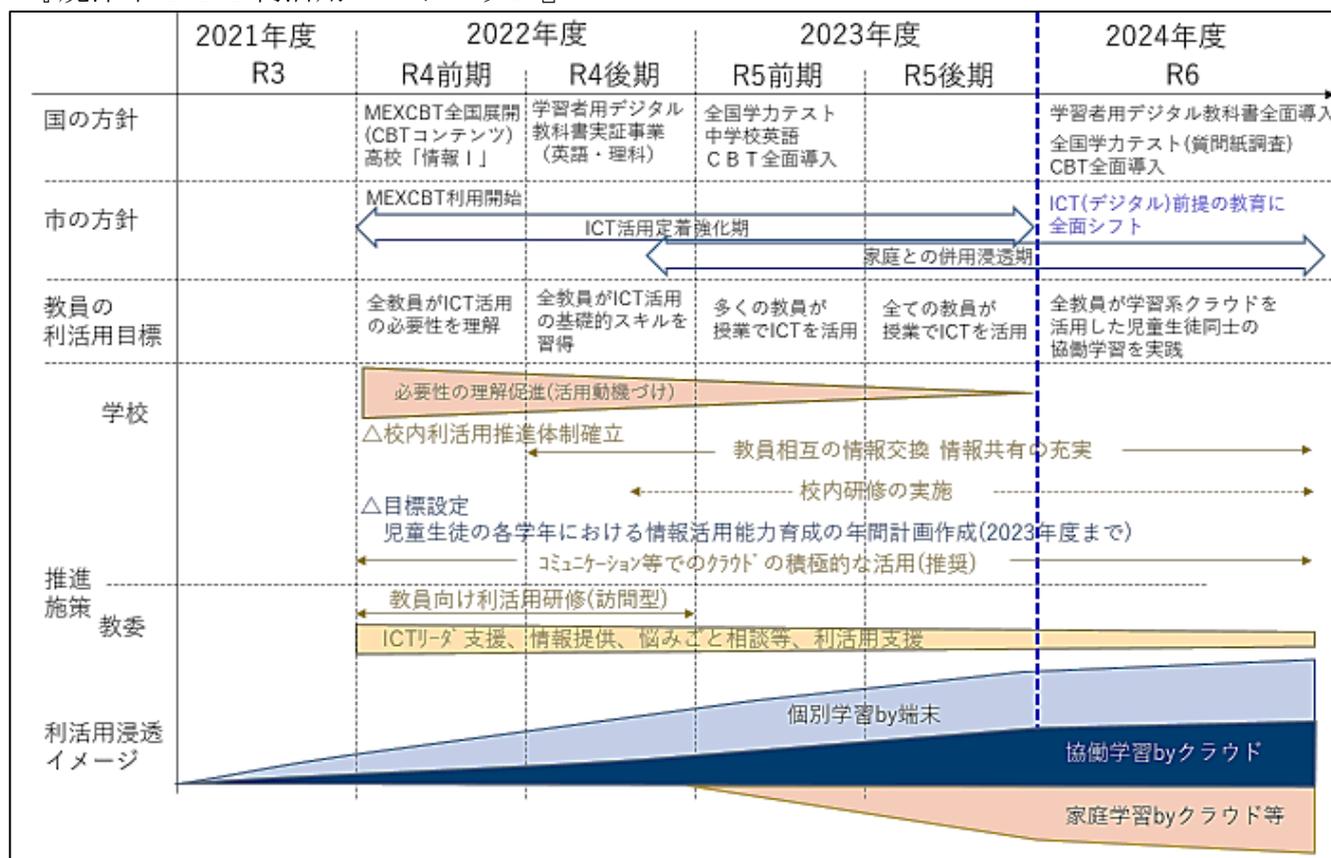
4 焼津市の方針

焼津市では国の方針・施策を鑑み、コンサルタントと協議しながら、焼津市ICT利活用推進計画を策定している。全国学力学習状況調査のCBT化、デジタル教科書の導入、高校や大学入試等、国の方針は既に具体的に定められている。

市として対応に遅れることが無いよう、コンサルタントから助言を受け、焼津市の全教員は2023年度末までにICTの利活用に慣れ、2024年度以降はICT利活用による協働学習・家庭学習を、日常的に実践できるようになることを目標としている。

※CBT（「Computer Based Test」の略で、子どもたちが学習者用端末を用いてテストを実施する形態を指す）

『焼津市ICT利活用ロードマップ』



焼津市教育 ICT 利活用推進計画について

G I A G スクール推進室 (きどう)

1. 本市 ICT 利活用推進計画の進捗について

(1) 実施した取り組みについて

① 年度当初訪問研修の実施 (市内 21 校)

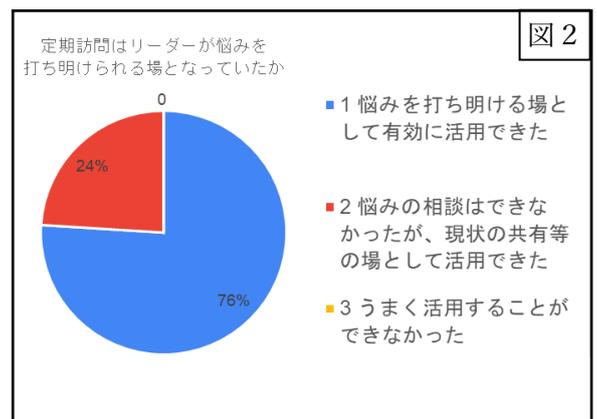
- ・世の中の動きや G I A G スクール構想の経緯、文部科学省の方針等をもとに、授業における ICT 活用の必要性について説明
- ・学校からの要望に応じて、様々な研修を実施 (ジャムボードの使い方、実践事例紹介、M E X C B T 操作研修等)

| 研修の理解度 | 割合 | 今後の ICT 活用の意欲 | 割合 |
|------------|-------|---------------|-------|
| とてもよく分かった | 56.7% | 大変意欲をもてた | 49.0% |
| まあまあ分かった | 40.2% | まあまあ意欲をもてた | 48.7% |
| あまり分からなかった | 2.8% | あまり意欲をもてなかった | 2.1% |
| 分からなかった | 0.3% | 意欲をもてなかった | 0.3% |

② 定期訪問の実施 (市内 20 校)

※ ICT 支援員検証校の 2 校を除く

- ・9:00~12:00 に市内の学校を訪問
- ・利活用リーダーや機器管理リーダーとの聞き取りや相談
- ・学校での端末利活用実態の把握と事例収集
- ・学校からの依頼に応じて支援対応 (授業での端末操作支援、端末活用授業の実施等)



③ 教材図鑑の作成及び充実 (図 3、4)

- ・市内教員の授業での活用例を投稿してもらい、それを市内教員で共有
- ・実践事例だけでなくその際使用したアプリをコピーすることができるため、負担が少なく授業に ICT を活用することができる
- ・10月27日現在、小学校 (124 事例) 中学校 (51 事例)

焼津市教材図鑑

図 3

小学校

全学年順

全教科順

参考リンク

1年生

2年生

3年生

4年生

5年生

6年生

特別支援

通級指導

外国籍指導

| | A | B | C | D | |
|---|-----------|----------|-------------|---------|---|
| 3 | 02 小学校2年生 | 07 図工・美術 | ふやしてかこう | Jambord | コピー&ペーストの練習 |
| 4 | 02 小学校2年生 | 07 図工・美術 | 何に見えるかな | Jambord | 図に描き加える 「見立てる」の練習 |
| 5 | 02 小学校2年生 | 07 図工・美術 | 何に見えるかな | Jambord | 図に書き加える 「見立てる」の練習 |
| 6 | 02 小学校2年生 | 11 道徳 | どうしてきまりがあるの | フォーム | 朝の時間などを活用して、事前に子どもに回答しても |
| 7 | 02 小学校2年生 | 13 特別活動 | 係活動表 | Jambord | 必要なことを書いたり打ったり、写真を入れたりする |
| 8 | 02 小学校2年生 | 14 ICT | ブロックの引っ越しゲー | Jambord | ジャムボードの操作について、ゲーム感覚で行いまし |
| 9 | 03 小学校3年生 | 01 国語 | こまを楽しむ | Jambord | 段落を「はじめ・なか・おわり」に分ける活動に使い |
| 0 | 03 小学校3年生 | 01 国語 | まいごのかぎ | Jambord | 物語のあらすじを把握するため、挿絵をならべる活動 |
| 1 | 03 小学校3年生 | 03 算数・数学 | わり算 | Jambord | わり算の学習（包含徐）で使用しました |
| 2 | 03 小学校3年生 | 03 算数・数学 | わり算 | Jambord | わり算の学習（等分徐）で使用しました |
| 3 | 03 小学校3年生 | 03 算数・数学 | 3けたの筆算のしかたを | Jambord | 付箋をブロックに見立てて、付箋を動かすことで筆算共有して使い、お互いに説明をしながら動かします。がら進めていきました。 |
| 4 | 03 小学校3年生 | 13 特別活動 | 係決め | スライド | Chromebookで写真を撮影し、貼り付ける。仕事につ2枚目のスライドは、印刷し、手書きで作成したい児 |
| 5 | 04 小学校4年生 | 01 国語 | ごんぎつね | Jambord | 初発の感想からジャムボードに書き込み、クラス全員化を読み、考えたことを話し合う |

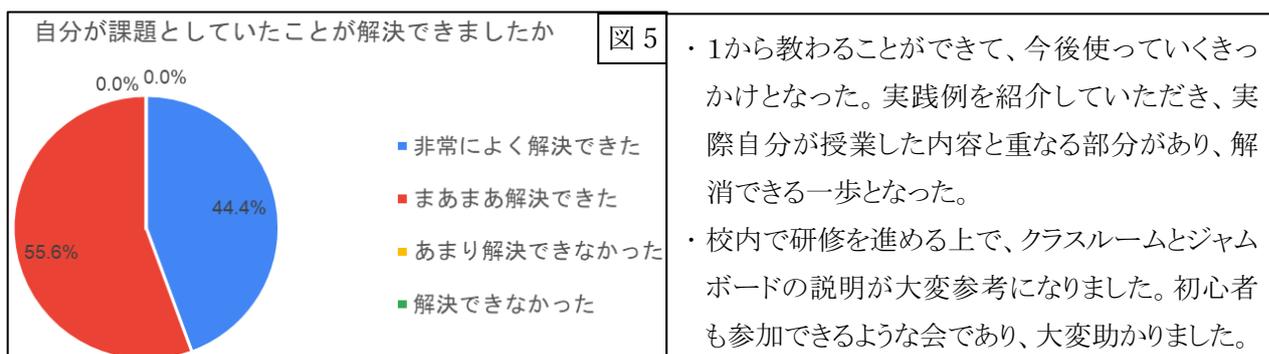
図 4

④ みらい講座の開催

- ・平日の夜間に希望者を募り研修会を実施

6月 1日（水）第1回みらい講座 「1からはじめる Chromebook」 11名参加

8月 23日（火）第3回みらい講座 「1からはじめるジャムボード」 7名参加



⑤ 利活用リーダーChat の活用（図 6）

- ・利活用リーダー間の情報共有及び、GIGAスクール推進室と利活用リーダーをつなぐ連絡手段として活用
- ・主には利活用についての相談と、リーダーが作成した資料の共有

| | |
|--|------------|
| <p>9月27日, 18:29</p> <p>早速ありがとうございます。 重ね重ね申し訳ないのですが、2段階認証の登録の仕方が書かれた書面はいつ頃学校の方にいただいたものかわかりますでしょうか。</p> <p>もしくは、2段階認証の登録の仕方が書かれた書面をデータでいただけるとありがたいです・・・。 お願いばかりで申し訳ありません。 よろしくお願いします。</p> <p>9月28日, 7:50 • 編集済み</p> <p>書面ではありませんが、GIGAトップ左側「マニュアル類」の中に2段階認証についてのページがあります。すでに御確認済み、もしくは質問の意図と違うようでしたら申し訳ありません。</p> <p>焼津市学校教育課 9月28日, 9:09 • 編集済み</p> <p>、ありがとうございます。 通知はかなり昔だったと思うので、すみませんいま手元になく... マニュアル類→Chromebook→2段階のメニューを確認していただければと思いますので、よろしくおねがいします。</p> | <p>図 6</p> |
|--|------------|

⑥ 児童生徒目標の設定（別紙1）

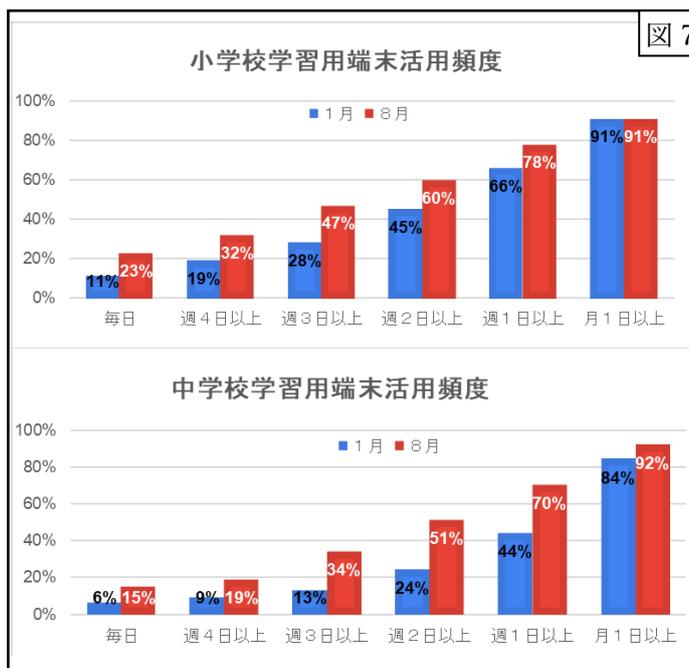
- ・「基本的な操作」、「問題解決・探究における情報活用」、「情報モラル・情報セキュリティ」の3分野に関して、発達段階別に目標を設定
- ・学校現場でより具体的にやるべきことが分かるように、「基本的な操作」の「アプリの操作」に関しては、抽出して目標を設定

(2) これまでの成果（令和4年1月及び令和4年8月の全教職員アンケートの比較）

① 学習者用端末の活用状況（図7）

学習者用端末（Chromebook）の活用については、カメラでの動画・写真の撮影やインターネット検索、タイピングアプリやドリルアプリの活用等が考えられる。

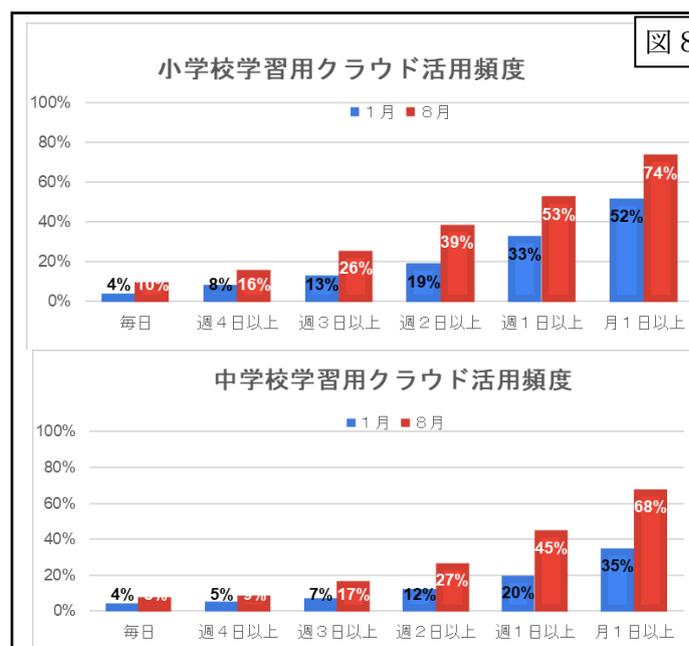
小中学校とも昨年度に比べ、全体的に活用頻度が向上している。特に、週1日以上活用する教員の割合では、小学校で12ポイント、中学校で26ポイントの増加が見られ、端末の活用について、確実に使用頻度が増していることが分かる。



② 学習系クラウドの活用状況（図8）

学習系クラウドの活用とは、Chromebook を活用して子供同士が交流して学習する協働学習や課題の出題及び提出、小テスト等がこれにあたる。

学習用端末の活用頻度と同様に、小中学校とも活用率の向上が見られる。特に週1日以上活用する教員の割合では、小学校で20ポイント、中学校で25ポイントの増加が見られた。



(3) これまでに分かってきた課題

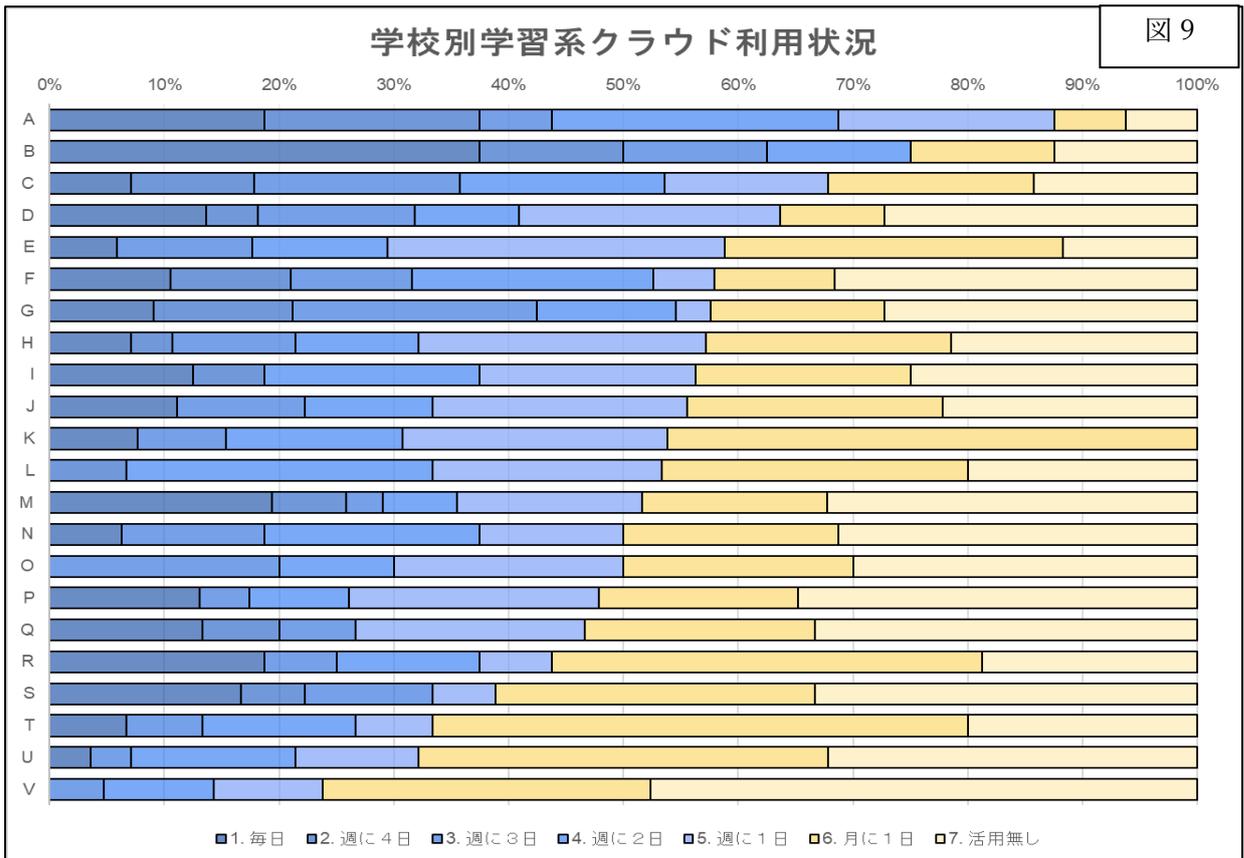
(令和4年1月及び令和4年8月の全教職員アンケートの比較より)

① 学校間の差 (図9)

下のグラフは成果②の学習系クラウド活用率(クラウドを活用した授業実施率)について、学校別の頻度を並べたものである。週1日以上の活用(青系の部分)は、上は87.5%から下は23.8%までと、学校間による差が拡大したことが分かる。

活用率が低い原因は学校によって様々であり、個々の学校の現状把握が必要である。

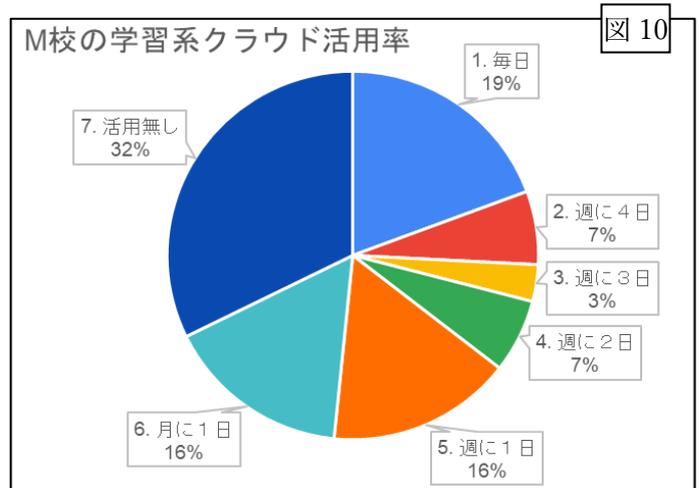
なお、この情報については11月の校長会において示しており、自校がどのような位置にいるかを校長先生方に周知している。



② 校内の教員間の差 (図10)

右のグラフは、市内のある学校(M校)の学習系クラウド活用率である。毎日使用する教員が19%いる一方で活用していない教員が32%いる。このように、教員間の差が拡大している。

これは、活用を進めている教員はその利便性や有効性を実感し、より利活用を進めていると考えられる一方、ICTを活用しない教員は、その必要性や有効性を実感することがなく、また、リテラシーも向上しないため、活用しないままの状態が続いていると思われる。



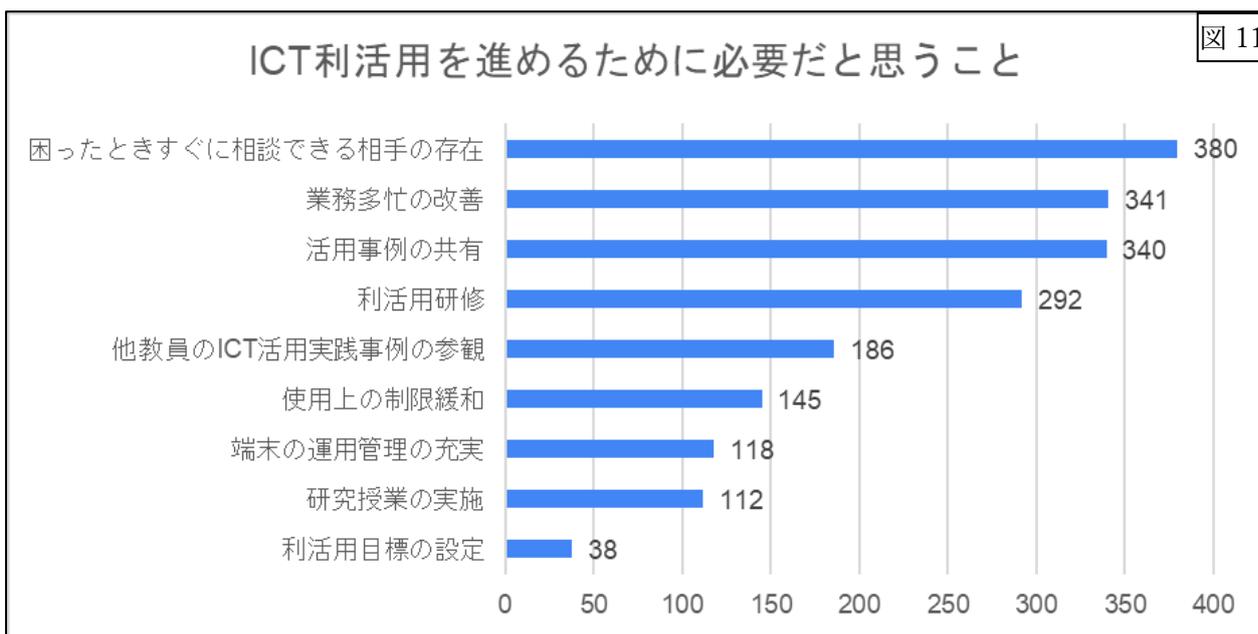
③ 学校現場からの要望（図11）

下の図は全教職員アンケートで寄せられた、「今後ICT利活用を進めるために必要だと思うこと」の集計結果である。

これを見ると、最も多い意見が「困ったときにすぐ相談できる相手の存在」である。

今年度より、各校の校務分掌に「利活用リーダー」と「機器管理リーダー」を必ず配置し、校内の相談相手としているが、やはりそれだけでは限界がある。また、3番目に意見の多い活用事例の共有や4番目の利活用研修についても、校内のみで対応するには時間的にも人員的にも難しいと思われる。

この部分については、GIGAスクール推進室がより学校への訪問頻度を上げ、学校の要望に対応していく必要があると考える。



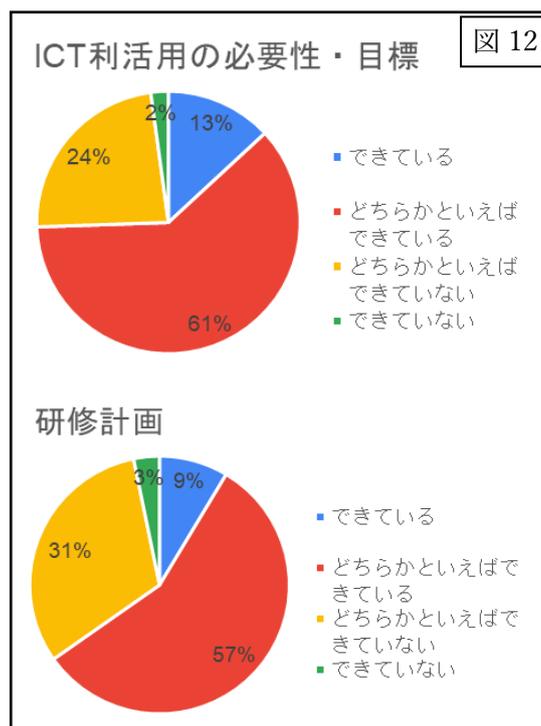
④ 教職員の目標についての達成度に向けて（図12）

すべての教員が、ICT利活用の必要性を理解し、ICT利活用の目標についての確認ができている。

「できている、どちらかといえばできている」と答えた割合が、約74%であった。年度当初訪問研修にて必要性については指導してきたが、教師のICT利活用の原動力となる必要性の理解は、今後も継続的に指導伝達していく必要がある。

校内研修等、ICT利活用に係る研修計画ができている。

質問項目としては「あなたは市や学校で計画されている研修計画や支援施策を把握していますか」という問いに対して、「できている、どちらかといえばできている」が66%と低い割合であった。市の取り組みについて更に周知を進める必要がある。



2. 今後の本市ICT利活用推進計画の取組の改善について

(1) 定期訪問の重点化(表 13)

第1回目の定期訪問は、全校対象に訪問を行ってきた。校内の教員間の格差状況を鑑みた場合、今後も全校に訪問することが望ましいが、22校を対象とすると、その訪問頻度は下がる。

そのため、全教職員アンケートをもとに進捗グループを3グループに分け、最

も活用が進んでいないグループを対象に重点的に定期訪問を行い、支援を実行する。そうすることで、支援が必要な学校への訪問を多くし、教員の活用頻度を上げていきたい。

また、訪問時の支援内容については、利活用リーダーと事前に相談し、その学校に適した支援を実行する。

全教職員アンケートをもとにした進捗状況グループ。表 13

| 進捗グループ | 定義 | 小学校 | 中学校 |
|------------------|--------------------------------|-----|-----|
| グループ赤 | 学習系クラウドを週1回以上活用する教員が60%以上 | 3校 | 1校 |
| グループ青 | 学習系クラウドを週1回以上活用する教員が50%以上60%未満 | 6校 | 5校 |
| グループ黄 (支援重点校) | 学習系クラウドを週1回以上活用する教員が50%未満 | 4校 | 3校 |

(2) 学校訪問型みらい講座の実施

これまでのみらい講座は、勤務時間後や所属校外を会場として行ってきたため、気軽な参加が難しく、ICTに比較的関心のある方の参加が多かった。しかし、そもそもICTに必要性を感じていない教員は、研修に参加することが無く、その有効性を実感する機会も乏しい。

そこで、みらい講座を学校訪問型とし、終業直後の16:30から開始することで、教員に気軽に参加できるように配慮する。対象は「学習系クラウドの活用をしていない教員」を主とし、少しでもICTにふれる機会をつくり、リテラシーを高めるとともに、その有効性を実感してほしいと考える。

開催する学校は、全教職員アンケートで学習系クラウドの活用について「月一回程度」「活用していない」と回答した教員が多く在籍する学校とし、みらい講座開始前に、学校においてGIGAスクール推進室職員が、ICTについての相談をうける「出張GIGA相談室」も開催する予定である。

(3) 要請訪問の実施

学校からの要請に応じ、学校へ訪問して支援を行う。校内全体への研修はもちろんのこと、習熟度別の少人数に対する研修等にも対応していく。

- (例)
- ・先進校がどのような実践をしているのか、本校の教員が使って体験できるような研修を行いたい。
 - ・本校職員に教材図鑑を見る習慣がないので、事前に一人一実践を行い、研修では、実際にアップロードするまでの活動を行いたい。

(4) 第1回焼津市タイピングコンテストの実施(図14)

タイピングは児童生徒が授業においてICTを活用するために必要な技術である。タイピング力が向上することで、授業における子供の円滑なICT活用につながる。そのタイピング力の向上を目的として、タイピングコンテストを実施する。

(期間) 10月3日(月)から10月31日(月)

(方法) タイピング練習アプリを用いて、タイピング速度とミスタイピング率をもとに算出されたスコアで競い合う

(部門) 小学校低学年の部、小学校高学年の部、中学校の部、教職員・保護者の部

(結果) 各部門上位100名まで、子どもポータル上で発表する

※10/25現在、

応募数 1665件、参加者数 908人
最高スコア

小学校5年生 9.38タイプ/秒 ミスタイプ0.61%

図14

令和4年度 第1回 焼津市 タイピングコンテスト

開催期間
令和4年10月3日(月) ~ 10月31日(月)

クラスの友だちとたくさん応募すれば、参加者数で上位入賞のチャンス

「学校対抗参加数の部」
「小学校低学年の部」
「小学校高学年の部」
「中学校の部」
「教職員・保護者の部」
各部門上位100名をこどもポータル上で発表

エントリー
まってるよ

別紙 1

児童生徒の利活用目標

| | | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
|-------------------|----------------------|--|--|--|--|
| 基本的な操作 | 文字入力 | 小学1・2年 手書き入力・音声入力・かな入力 | 小学3年 ローマ字入力 20文字/分 小学4年 ローマ字入力 30文字/分 | 小学5年 ローマ字入力 40文字/分 小学6年 ローマ字入力 50文字/分 | 中学1年 ローマ字入力 60文字/分 中学2年 ローマ字入力 70文字/分 中学3年 ローマ字入力 80文字/分 |
| | ファイルの呼び出し、保存 | ファイルの呼び出し、保存ができる | 必要なファイルを検索で見つけることができる | ファイルやフォルダの管理、データの保存、移動、コピー、削除などができる | ファイルやフォルダをミスなく目的通りに共有することができる |
| | 端末の操作 | 起動、ログイン、シャットダウンができる タッチパネルの操作ができる | キーボード入力ができる 半角/全角の切り替えができる タッチパッドの操作ができる | ショートカットキーを使った操作ができる (コピー、貼り付け、切り取り等) | 画面キャプチャ、ウィンドの整列、画面の最大化ができる |
| | アプリの操作 (別紙2参照) | 小学1年 活用レベル1 小学2年 活用レベル2 | 小学3年 活用レベル3 小学4年 活用レベル4 | 小学5年 活用レベル5 小学6年 活用レベル6 | 目的に応じて、各アプリを自分で選択して活用することができる |
| 問題解決・探究における情報活用 | 整理 | 絵や図、簡単な表等を用いて情報を整理できる | 図や表、グラフ等を用いて情報を整理できる | 目的に応じて、適切な表やグラフを用いて情報を整理できる | 目的に応じて、適切な表やグラフを用いて情報を統計的に整理できる |
| | 取捨選択 | 課題解決に役立つ情報を選ぶことができる | 課題解決に役立つ情報を選んだ根拠を説明することができる | 信頼性や信憑性を考えて情報を取捨選択することができる | 重要度や代表性を考慮して情報を階層化することができる |
| | 表現 | 文字や写真を用いて、自分の考えを表現できる | 伝えたいことに応じて表現を工夫できる | 文字や写真、動画等の複数のメディアを組み合わせて表現を工夫できる | 色彩やフォント、映像・音響効果などメディアの特性を理解して表現を工夫できる |
| 情報モラル 情報セキュリティ | 情報セキュリティについての理解 | ID、パスワード等の安全管理について理解することができる | なりすましやウイルス等の危険性を理解することができる | 情報セキュリティの重要性を理解することができる | 情報セキュリティを確保するための方法を理解し、活用することができる |
| | 情報モラルに配慮し、情報を活用する力 | 自他の情報や作品を大切にすることができる | 個人情報保護の大切さを知り、著作権や肖像権に留意して情報を扱うことができる | SNS等の情報の送受信で起きる問題を理解し、それに対応することができる | 情報の保護や取扱いに関する法律に基づき、他人や社会への影響を考慮して適切に管理できる 情報の保護や取扱いに関する法律に基づき、他人や社会への影響を考慮して適切に管理できる |
| | 責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 | コンピューター等を利用するときの基本的なルールを理解し、それらを守ることができる | 情報をやり取りする場合のルールやマナーを理解し、それらを守ることができる | 通信ネットワーク上のルールやマナーを理解し、それらを守ることができる | 情報社会は互いに法律やマナー等を守ることによって成り立っていることを理解し、それらを守ることができる |

Chromebook 活用スキルチェック表

参考資料:「情報モラル指導モデルカリキュラム」の策定について(学校全体での体系的な情報モラル教育の取組のために)

| 活用レベル | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 | レベル5 | レベル6 | | |
|---|--|--|---|--|--|-----------------------------------|---------------------------------|-------------------|
| カメラ  | ・写真や動画を撮り見ることができる。 | ・写真を撮り、ペンツールで文字等を書き込むことができる。 | ・カメラで写真や動画を撮りドライブに保存できる。 ・QRコードを読み取りアクセスできる。 | ・カメラで撮影した画像や動画をほかのアプリに挿入して活用することができる。 | ・情報モラルを意識しながら、必要に応じて写真や画像を活用することができる。 | | | |
| Classroom  | ・Classroomに参加することができる。 ・先生が配布した資料を見ることができる。 | ・課題を提出することができる | ・ストリームに意見を書いたり資料を添付したりすることができる。 | | | | | |
| ジャムボード  | ・図や文字を移動することができる。 | ・手書きで絵や文字を書くことができる。 ・写真を挿入することができる。 | ・付箋に自分の意見を書くことができる。 | ・ペアやグループで作成した付箋を動かし、考えをまとめることができる。 | ・付箋の内容を読み、分類、比較、関連つけながら整理することができる。 | | | |
| フォーム  | ・選択式の質問に答えることができる。 | | | ・記述式の質問に答えることができる。 | ・簡単なアンケートやクイズを作ることができる。 | ・アンケートを作成する際、目的に応じた回答方法を選ぶことができる。 | ・フォームで集計したデータを目的に応じて活用することができる。 | |
| スライド  | | | ・自分の考えを指定された場所に書くことができる。 | ・写真や動画・画像を貼り付けて自分の考えを表現することができる。 | ・目的に応じた資料を活用してまとめ、自分の考えを発表できる。 | ・複数名で協働して資料を作成し発表することができる。 | | |
| スプレッドシート  | | | | | ・教師が指定した場所に半角で英数字を入力できる。 ・決められた場所に文字を入力できる。 | ・目的に応じて表を作ることができる。 | ・作った表からグラフを作ることができる。 | |
| ドキュメント  | | | | | | | ・写真や図形を入れて考えをまとめることができる。 | ・作文や意見文を書くことができる。 |
| Meet  | ・Meetを起動できる。 | ・Meetの「音声」「ビデオ」のON/OFFが切り替えられる。 | ・状況に合わせて挙手したり、チャットを使って先生とやり取りできる。 | ・GWS(グーグルワークスペース)の機能を同時に使って授業を受けることができる。 | ・GWS(グーグルワークスペース)の機能を同時に使って授業を受けることができる。 | | | |